

## 研究計画概要

助成年度・種別	2015年度 若手研究助成
研究者	宍倉 悠太
所 属	早稲田大学大学院法学研究科
研究テーマ	発達障害を有する非行少年・不良行為少年の再犯防止システムに関する研究
研究計画概要	<p>発達障害者の中には犯罪・非行を繰り返す者も存在するが、障害自体が犯罪・非行の直接的要因になっているとは考えにくい。むしろ、成人になる前段階において発達障害（特に自閉症スペクトラム障害）が学校・職場でのコミュニケーションに困難を及ぼしたことにより、彼らの居場所が狭められ（被害者化）、ひいては逸脱行動に至る（加害者化）ことが多い。</p> <p>こうした困難はコミュニケーションの範囲が広がる中学生期以降に多く現れるが、特に通常学級に在籍する「知的な遅れの無い発達障害」を有する児童生徒の場合は、この時期に障害が見つかった後も逸脱行動が進んでいることがあり、学校だけの対応が困難になる。</p> <p>また、障害の発見が遅れた者は、その常同性から生じた行動が、本人に要求される規範意識の水準が高くなる中学生期以降は触法行為と評価され、適切な療育を受けられなかったが故に犯罪加害者の烙印を押されるリスクを負ってしまう場合もある。</p> <p>本研究ではこうした問題意識から、とりわけ中学生期を中心に、発達障害のある非行少年・不良行為少年の「さらなる加害者化の防止」ならびに「立ち直り」のための適正・有効な多機関連携システムのあり方を提示したい。</p>
選考委員からのコメント	<p>発達障害を有する非行少年への早期の対応は、重要な研究テーマである。本研究は、実際に対応している機関への調査研究であり、再犯防止に向けてのシステムの構築を目的としている。研究成果に期待が持てる。</p>